



# ぱれっと

6  
2021 June  
vol.250

特集「営農振興計画」最終年度の取り組み  
～「農畜産物の生産振興」重点実施事項①～⑦の達成状況について～

農を担う  
ブドウ農家 渡邊 亮太 さん  
古都地区……………10ページ

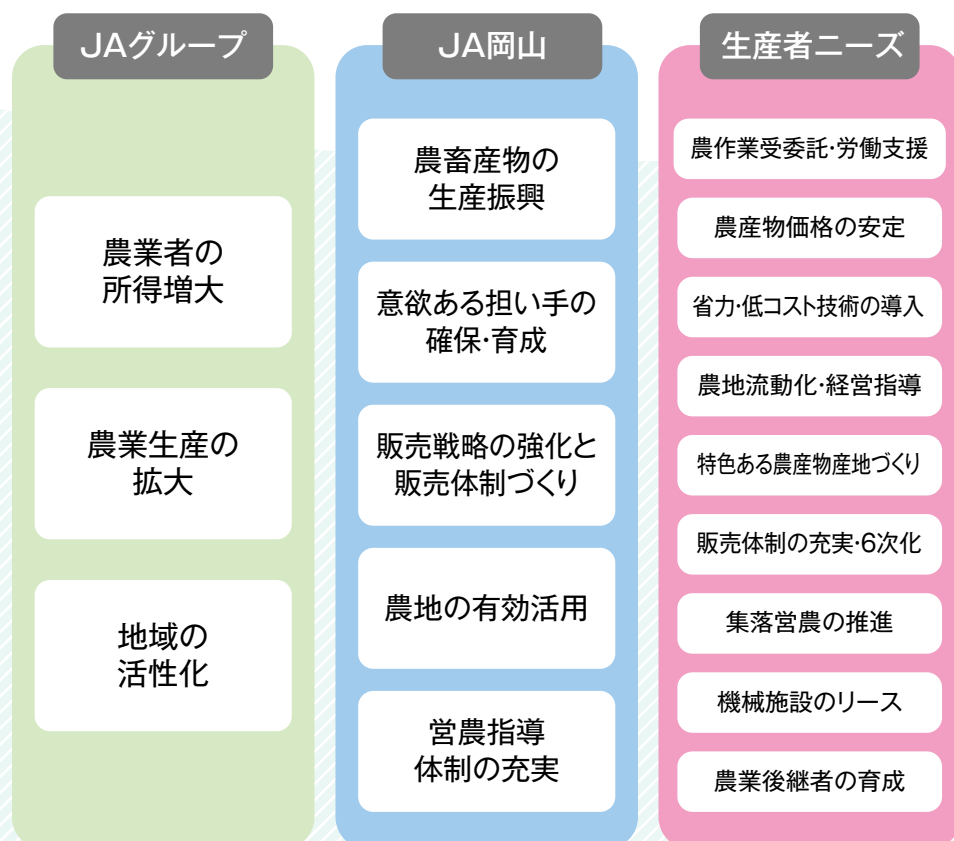
今月の折り込み タキイ秋まき野菜種子注文書 ほか

# 営農振興計画の 基本方針と行動計画

JA岡山では「計画策定の考え方」に基づき、次の5項目を営農振興計画の基本方針として掲げ、取り組みを進めてまいりました。



## 農業振興対策のスタンス



「営農振興計画」最終年度の取り組み  
「農畜産物の生産振興」重点実施事項①～⑦の達成状況について  
令和元年からの営農振興計画の基本方針と行動計画に沿って進めた取り組みを紹介いたします。



# 農畜産物の生産振興

## 重点実施事項①

### 水田フル活用ビジョンの作成

営農センター別に水田フル活用ビジョンを作成し、令和3年度まで見直しを行いながら進めてきました。次期でも継続して取り組みます。

## 重点実施事項②

### 米の主要品種並びに業務用米の安定多収生産技術の確立

主食用米として需要のある「ヒノヒカリ」と業務用米として需要のある「アケボノ」等の安定多収生産に取り組みました。JAおかやまプライベート15<sup>キ</sup>袋肥料の普及実証を目的に「JAおかやま専用588中生」、「JAおかやま専用590中晩生」と現行のプライベート20<sup>キ</sup>袋肥料との比較栽培試験を行いました。「ヒノヒカリ」



区平均531<sup>キ</sup>／10<sup>ルア</sup>、対象区平均507<sup>キ</sup>／10<sup>ルア</sup>、「アケボノ」区523<sup>キ</sup>／10<sup>ルア</sup>、対象区507<sup>キ</sup>／10<sup>ルア</sup>の結果となり、各区とも現行のプライベート肥料と比べ、収量とコストにおいて有利性が確認できました。今後は、プライベート肥料の普及拡大のため推進に努めます。

また、「アケボノ」の多収性技術の実証を目的にドローンを用いて、上空から水田を撮影し、葉

色診断と生育分析を行いました。分析結果に基づいて施肥量を関係機関と協議をし、無人ヘリによる可変追肥を実施しました。その結果、各ほ場内の葉色と茎数等の生育のばらつきを軽減させることにより20<sup>キ</sup>／30<sup>キ</sup>／10<sup>ルア</sup>の増収となりました。

今後も、ドローンによる水稻の葉色診断と分析を継続することによりデータを蓄積させ栽培指導に役立てます。



## 重点実施事項③

### 小麦およびビール麦の 作付拡大と安定多収技術 の確立

(株)JAアグリ岡山、グリーン  
ファーム岡山と連携し適切な施肥  
指導を実施し、多収・高品質に  
むけた生産振興に取り組みまし  
た。各地区での講習会を通じてほ  
場条件の改善による安定生産と、  
土壌診断による施肥改善指導の  
実施や排水対策の励行を呼び掛  
け、麦類の生産振興に努めました。



令和3年実績は小麦の作付面積7  
23<sup>ha</sup>、二条大麦は1,800<sup>ha</sup>  
の実績となりました。

今後はタンパク含量向上と作  
業省力化ニーズに対応すべく緩  
効性肥料施用による多収・高品  
質にむけた栽培実証実験を行  
います。

## 重点実施事項④

### 野菜振興品目の生産拡大 と野菜産地の育成

青果物生産者組織等および関  
係機関と連携し、巡回および講  
習会の開催による高品質安定生  
産指導を行うとともに、既存の  
園芸産地における生産面積の維  
持・拡大に努めました。

また、営農振興支援事業を活  
用し、キャベツ、白菜、タマネギ  
など契約野菜・水田利用野菜の  
作付推進を図り、合計13・5<sup>ha</sup>  
の面積拡大に繋がりました。既  
存産地の現状を踏まえ、契約野  
菜と複合経営に興味のある大型  
米麦農家にアプローチを行い、水  
田利用野菜作付けによる契約野



菜の作付け提案推進を行い契約  
キャベツ1・3<sup>ha</sup>の実績となりま  
した。

## 重点実施事項⑤

### 果樹振興品種、有望品種 の生産拡大と主要品種の 高品質安定生産

園地巡回および講習会の開催に  
よる高品質安定生産指導を行うと  
ともに、補助事業ならびに営農資



金等を活用した園地整備と栽培施  
設等の導入支援を行っています。

引き続き、生産部会を中心に  
桃振興品種「清水白桃」、「おかや  
ま夢白桃」、「PEH7号(白皇)」、  
「PEH8号(白露)」とブドウ振  
興品種「ピオーネ」、「シャインマ  
スカット」、「オーロラブラック」、  
「紫苑」の高品質安定生産と改植  
推進を図るとともに、桃、ブドウ、  
梨の有望品種の作付推進および栽  
培技術の確立と普及を行います。



## 重点実施事項⑥

### 施設・露地花きの産地規模の維持・拡大および新規品目の生産拡大と産地化

施設花き、露地花きの産地規模の維持・拡大を目指し、生産部会および関係機関と協力し、現地見学会や新規栽培講習会を開催し、新規栽培者の確保と早期技術習得を図っています。安定生産技術の実証により、生産性・収益性の改善を図るとともに各部会で研究



会、定期巡回を行い計画作付や知識・技能の向上を推進しています。

施設品目の「ブプレウラム」「スイートピー」に関しては、産地PR、新規栽培者受入の検討や生産安定化の推進で産地規模の維持に努めています。

露地品目の「リンドウ」は、品種の組み合わせによる長期出荷を推進し、「切り花葉ボタン」は広域での出荷規格統一と需要に応じた作付推進を行い生産拡大を目指しています。



## 重点実施事項⑦

### 和牛繁殖経営の安定

関係機関と連携し、同行巡回指導を行い、子牛の生産技術向上と「おかやま四ツ☆子牛」の出

荷頭数増大を目指しています。また、育成マニュアルを活用した飼養管理技術指導や県の基幹種雄牛を活用した交配指導に取り組んでいます。



## 予告

ぱれっと7月号では、「JA岡山中期計画の取り組み」を掲載予定です。





農  
を担う  
vol.250

# 意欲的にブドウ栽培に取り組み、 地域の後継者として活躍する

## 渡邊 亮太さん

古都地区：ブドウ農家

「わたなべ りょうた」

平成11年生まれ。㊤西大寺ぶどう部会古都支部所属。ブドウ農家。両親、弟、妹の5人家族。  
趣味はゴルフ、ダーツ。座右の銘は「即断・即決・即行」。







農業について思いを話す渡邊さん

4月20日、古都地区のブドウ農家の渡邊亮太さんにお話を伺いました。

## 20歳で就農を決意

―就農したきっかけは

家は農家ではなかったのですが、子どものころから自然が好きで、家庭菜園をしていました。自分で考えて農業を経営していくことにも興味があり、父が背中を押してくれたこともあって、2年前に就農しました。

―農業を始めてからは

高校卒業後、農業大学校の果樹コースに進み、ブドウを専攻し基礎を学びました。農業大学校の研修時に今の師匠に出会い、ブドウ農家に誘われたこともあり、ブドウ農家になりたいという思いが強くなりました。

現在は、65坪のほ場を借り、ブドウ5品種を栽培しています。今でも師匠にはブドウの基礎管理や栽培技術を教わっており、大変お世話になっています。

去年の8月からはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）にも力を入れており、ブドウの成長具合やほ場の様子を投稿し、PRに繋がっています。

―楽しい点は

ブドウの成長の変化が楽しいです。常にブドウの成長より早く作業をすることを心掛けており、「適期より早く」を念頭に計画・実行することが重要だと考えています。

ブドウの成長を補助し、自分の考えの通りうまくいった時は、

嬉しいですし、やりがいを感じます。

―苦労する点は

鳥獣や虫の対策に苦労しています。電気柵を設置したり、早めに農薬を使用したりして、臨機応変に対応しています。

## 地域の後継者として、活躍を目指す

―今後の抱負は

ブドウ栽培に取り組むうえで、まずは経営を安定させることが目標です。そのためにブドウ栽培の知識を増やし、栽培技術の向上を図っています。将来的には従業員を雇い経営規模を拡大していきたいと考えています。

まだまだ師匠や先輩に教わることも多いですが、夢を大きく持ち、意欲的にブドウを栽培し、知識と経験を蓄え、地域の後継者として活躍できるよう、頑張っていきたいです。

聞き手…JA岡山広報担当



成長の変化を見逃さないようチェックします



摘粒作業の様子

# 家庭園芸

2021.6  
お問い合わせ先  
営農部指導課  
Tel.086(225)3224

## 野菜

地這いキュウリを栽培してみよう



営農部指導課  
宮本 大輔

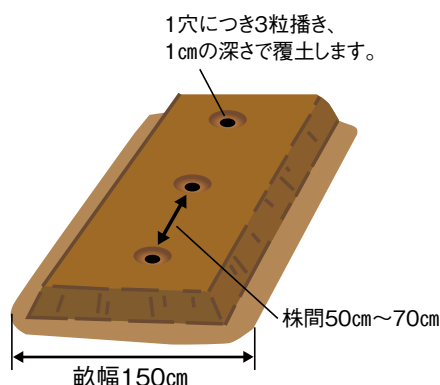
### ◎地這いキュウリの栽培

春に植えたキュウリの収穫は最盛期にむかいますが、これから夏期に入るとしだいに樹の勢いが無くなり収量も減ってくるので、次に地這いキュウリを栽培してみましよう。

春植えキュウリは、支柱やネットに誘引して育てる立体栽培が一般的ですが、地這いキュウリは、支柱を立てることなく、地面を這わせるので真夏の高温や乾燥の害を受けにくく、最小限の管理作業で収穫できる栽培方法です。

7月中旬ごろまで播種することができます、6月に栽培が終わるタマネギ、ジャガイモ、マメ類の後作で取り入れやすい栽培方法です。ただし、キュウリ後の連作は避けましよう。暑さに強く、親づるを摘みし、伸ばした子づる・孫づるに着果させる品種の『霜知らず地這』等で栽培します。

### 資料1 地這いキュウリの播種



### 資料2 地這いキュウリの整枝

伸ばした子づると孫づるは放任とします



株元から4節までに  
出た雄花や子づる  
は取ります

親づるを摘芯し  
子づるを3~4本  
四方に伸ばします

### 資料3 地這いキュウリの薬剤防除

| 農薬名              | ダコニール<br>1000     | スタークル<br>顆粒水溶剤     |
|------------------|-------------------|--------------------|
| 適用<br>病害虫        | べと病・褐斑病・<br>うどんこ病 | アブラムシ類・<br>コナジラミ類・ |
| 希釈倍数             | 1000倍             | 2000~3000倍         |
| 使用時期<br>(収穫〇〇まで) | 前日                | 前日                 |
| 使用回数<br>(〇〇以内)   | 8                 | 2                  |
| 使用方法             | 散布                | 散布                 |

### ●畑の準備

前作が終わりしだい堆肥を10平方  
メートルあたり20<sup>kg</sup>、苦土石灰を1<sup>kg</sup>施用  
し深く耕します。

播種または定植の1週間前には10  
平方メートルあたり化成肥料(野菜いちば  
ん等を)を1<sup>kg</sup>施し土とよく混和し  
て、150<sup>cm</sup>の幅の畝を作っておき  
ます(資料1)。

### ●播種、または定植

畑に直播きする場合には、株間50  
<sup>cm</sup>とし、1穴あたり3粒播き1<sup>m</sup>  
<sup>2</sup>程覆土をします。発芽をよくする  
ために、播種の前後には充分灌水を  
します。本葉3枚のころまでに間引  
いて1本にします。

また、ポット育苗する場合には、  
ビニールポット3号(直径9<sup>cm</sup>)に  
1<sup>粒</sup>の深さに3粒播種し、発芽まで  
乾燥させないように管理します。発  
芽してきたら徐々に日当たりのよい

場所に移動して、間引きを行いなが  
ら、本葉2枚のころに1本にします。  
本葉が3枚になったら定植します。

### ●敷きわら

地這いキュウリでは、表土の乾燥  
と果実への土の跳ね上がりを防ぐた  
めに、つるが伸びるにつれ、必ず敷  
きわらをしていきます。

敷きわらの代わりに不織布を使う  
方法もあります。

### ●整枝と手入れ

本葉が6~8枚ほど展開したら、  
親づるを摘芯し、勢いのよい子づる  
を3~4本、四方に伸ばすようにし  
ます(資料2)。雄花の着きやすい  
子づる・孫づるの育ちを促すとも  
に、つる同士の間を詰まらせます。  
つるが30<sup>cm</sup>伸び出したところに株  
の周りに、また、50~60<sup>cm</sup>伸びた  
ころつるの先端付近に、10平方<sup>m</sup>

あたり化成肥料(野菜いちばん等)  
を200<sup>g</sup>施用します。

### ●病害虫の防除

この時期に多い病害虫の防除に  
ついては、早めに対処しましよう  
(資料3)。

### ●収穫

開花後7~10日程度で収穫でき  
ます。大きい果実や収穫量が多い  
日が続くと草勢が弱り、果実が細  
く曲がりやすいので、収穫は早め  
に行い追肥も行います。果実が葉  
の下になって目立ちにくいので、  
収穫は取り残しのないように、気  
をつけましよう。



# 花き

ポインセチアには  
いろいろな花言葉  
があります



営農部指導課  
中川 雄一

クリスマスを彩ったポインセチアの株が元気に育っていたら、今月は挿し木の時期です。その方法などを説明します。

花言葉は「祝福」「聖夜」「清纯」などの他、色別にもあるようです。

## ●ポインセチアの特徴

メキシコの山地原産で、冬暖かいところでは数層になる樹です。日本でもまれに立派な鉢植えを仕立てることがあります。はじめて夏越しする場合は意外と大きくなることを体験できます。

乾燥に強く、土壌が過湿になると根腐れしやすいので、春までは水のやり過ぎに注意しますが、鉢植えの場合、夏は水切れしないように灌水が必要です（梅雨の長雨に遭うと根腐れを起こすことがあります。雨のあたらないところで管理するのが安全です）。

日照を好み、気温の高い時期は元気に生育しますが、真夏は強光で葉焼けを起こすこともあるので、明るい半日陰に置きましょう。

## ●挿し木の手順

浅めの育苗箱や、少量なら駄温鉢を使います。

用土は、パーライトにピートモスを3割程度混合したもの、細粒の鹿沼土などを使います。容器に入れて均一にならし、あらかじめ湿らせておきます。用土は新しい清潔なものを使います。

よく切れる清潔な刃物で、新芽を長さ10センチ程に切って、葉は2〜3枚残して下葉を取ります。残した葉も、蒸散抑制のため半分くらいに切ります（春から伸びた芽がそのままの株は、切り戻しせん定を兼ねて、切った部分の芽を使えます（資料4））。

切り口から白い乳汁（樹液）が出るので水につけて洗い流します。これをそのままにすると、切り口で固まり、発根しにくくなります。

樹液が出なくなったら、きれいな水に約1時間つけて水あげします（資料5）。

用土に箸などで挿し穴を開けておき、挿し穂の切り口に発根促進剤を付けて挿していきます。

直接風や雨が当たらない、明るい日陰に、容器を地面から浮かせて水平に置きます。

たっぷり水をかけて、挿し穂が多少傾いても動かさないで発根を待ちます。

順調なら3〜4週間ほどで発根するので、それまで乾燥しないように管理します。ただし、用土が乾いていなければ灌水しないで、霧吹きなどで葉水をかけます。

## ●発根後の管理

発根すると芽が動き出します。ポリポットに用土を入れて鉢上げします。

用土は保水性も必要ですが、排水

性を確保しましょう。手軽には観葉植物用培養土などが利用できますが、排水性に不安がある場合はいくらかパーライトなどを混ぜるとよくなります。また、赤玉土や腐葉土を混合して作った用土でもかまいませんが、保水性とともに通気・排水のよい用土を意識しましょう。

## ●害虫

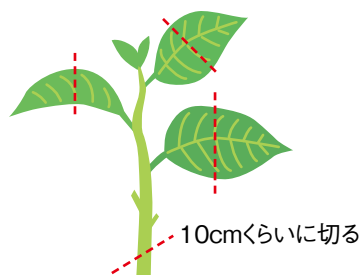
オンシツコナジラミやカイガラムシがつきやすい植物です。置き場所も風通しのよいところを選び、混みすぎるようなら枝を間引きましょう。薬剤防除は花き類登録のある殺虫剤で行います。

## ●簡易な短日処理

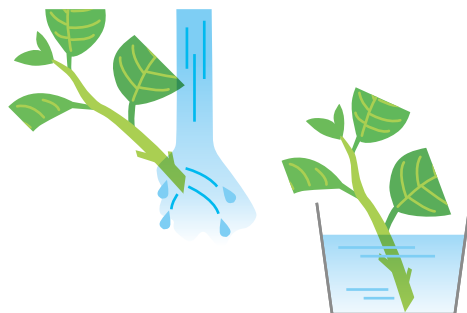
ポインセチアは日長が短くなると花芽分化して、それに付随した「苞」ができて着色します。クリスマスに赤くするには9月中下旬から、株にダンボール箱をかぶせるなどして日長を短くします。毎日、1日も欠かさず、夕方5時〜朝8時の間、途中で開けて見てはいけません。そして、昼間は日照が必要です。

### 資料4 挿し穂の調整

2〜3枚残した葉は  
半分くらいに切る

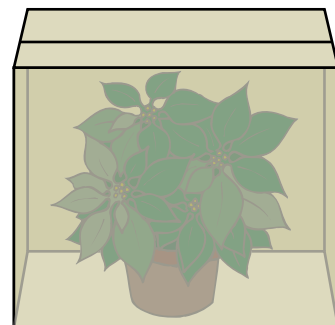


### 資料5 樹液の洗浄と水あげ



切り口から白い樹液が出なくなったら  
きれいな水で水あげします

### 資料6 短日処理



箱の中に光が入らないように

# 果樹

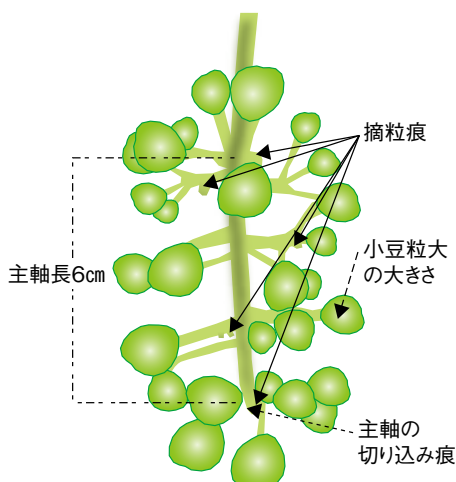
梅雨がくる前に排水路の整備をしましょう



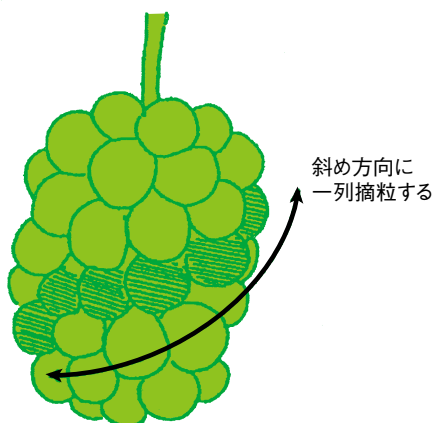
営農部指導課 武田 祐一

今月の主な作業は桃や梨の袋掛け、ブドウの摘粒、キウイや柿の摘果、梅・ビワの収穫などがあります。梅雨期になると降雨が多くなり裂果や腐敗の原因になるので事前に排水路の点検・整備をしておきましょう。

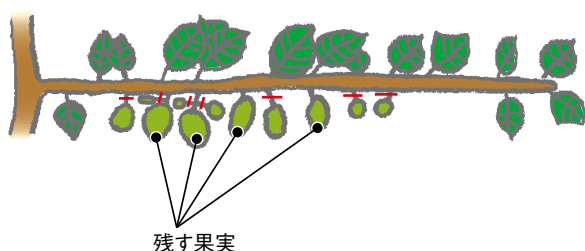
## 資料7 ピオーネ摘粒程度の目安(35粒程度)



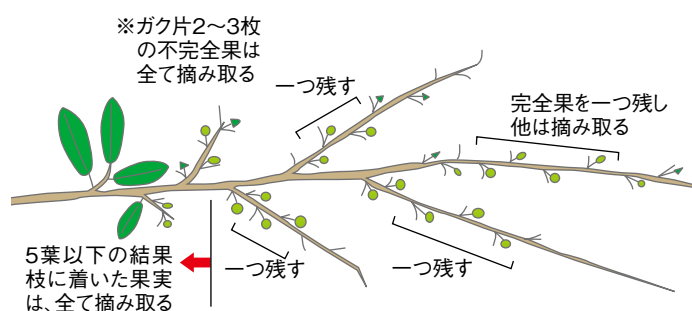
## 資料8 仕上げ摘粒の例



## 資料9 キウイの摘果例



## 資料10 柿の仕上げ摘果例



### ●ブドウの摘粒

結実後の果粒が小豆粒の大きさになり、大小差の判断ができるようになったら1回目の摘粒を始めます。間引く果粒は内向き果粒、小粒、傷果、病害虫被害粒などを優先して間引きます。ポイントとは、房の中心部を多めに間引き、肩部と先端部はやや軽めにするとうい房形になります(資料7)。残す果粒は35〜40粒程度として大房にならないようにします(満開後14日以内に終了させましょう)。2回目の摘粒は果粒が肥大し、粒と粒が密着するところに摘粒忘れや、混み合った部分を間引きます(摘粒程度は5粒程度)。

### ●仕上げ摘粒の例

摘粒は果粒肥大を想定して行いますが、遅く行くと摘粒後の穴が塞がらなかったり、残す粒を傷つけてしまうことがあります。早く行くと房の内側に粒を挟んだりします。仕上げ摘粒が遅れた場合や予想以上に密着した場合は斜め一列に摘粒すると房形を損なわず間引く事ができます(資料8)。

### ●キウイの摘果

開花後10日ごろから行い、7月上中旬には仕上げ摘果を行います。目安は5〜6枚の葉に1果程度ならせるとよい果実になります。短果枝(30センチ以下)には1〜2果、中果枝には3〜4果、

### ●柿の摘果

予備摘果を6月下旬までに行い、生理的落果が少なくなる7月上中旬に最終摘果を行います。残す果実は結果枝基部から2〜3番目の横向き果で、ガク片が4枚ある大きな果実です(資料10)。

長果枝(1メートル以上)には4〜5果程度を着果させます。摘蕾をしていなかった枝では側果を全部摘果します(残しておいても大きくならないため)。摘果は小果、病害虫果、側果、扁平果から摘果します。仕上げ摘果では基部果や先端果を摘果し、着果程度を調節します(資料9)。



里の吳汁井



JA岡山女性部監修

# OKOME

おこめレシピ

# RECIPE

### 材料 (4人分)

活どじょう ..... 250g  
 酒 ..... 1/2 カップ  
 枝豆（さや付き）..... 400g  
                 (正味約 150g)  
 大根 ..... 200g  
 人参 ..... 50g  
 油揚げ..... 1枚  
 ごぼう ..... 1本  
 しめじ ..... 1袋  
 ちくわ ..... 小2本  
 ネギ ..... 適量  
 だし汁 ..... 640cc  
 顆粒和風だし..... 小さじ1  
 味噌 ..... 30g  
 ◎ご飯は1人分200g

## 作り方

- ①枝豆を塩茹でして、豆をさやから取り出す。フードプロセッサー（ミキサー）にかけ、粒々が残るくらいにすり潰す。
- ②大根、人参、油揚げは短冊切り、ごぼうはさがきにして水に浸けてアクを抜く。しめじは小房に分け、ちくわは縦半分に切って小口切り、ネギは小口切りにする。
- ③鍋に酒と活どじょうを入れ、すぐに蓋をし火をつける。どじょうが跳ねる音がしなくなったらだし汁と顆粒和風だしを入れて煮る。
- ④よく煮立ったところへ、ネギ以外の②の具材を入れ、やわらかく煮えたら枝豆を加えて味噌を溶き入れ、沸とうする直前に火を止める。
- ⑤丼にご飯をよそい、具と汁をかけネギを散らして完成。

あぐろ  
グラム

## 清水白桃発祥の地

岡山市北区一宮地域には「清水白桃発祥の地」と刻まれた大きな石碑が建っています。

恵まれた日照時間や排水性に優れた土地を有すことから果樹栽培の適地と言われ、古くから果樹栽培が盛んでした。昭和7年には、岡山県の代表品種である「清水白桃」が見いだされ、熱心な果樹農家や研究者らの努力により品質が高められてきました。

肉質が緻密で柔らかく、多汁で甘味が強い非常に優れた品種として好まれ現在では「桃の女王」とも評され市場でも高い評価を得ています。

編集担当 住吉 沙弥香

